
Red tornado痛

～ マリオ・世界を行く ～

天才泣き虫ノコノコ君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Red tornado 痛　　＼マリオ・世界を行く＼

【Nコード】

N2996J

【作者名】

天才泣き虫ノコノコ君

【あらすじ】

あのマリオが帰ってきた！！
今度の舞台は世界だ！！

Royal flushに敗れ、修行の旅に出たマリオ。
しかし、その先でとんでもない事件に巻き込まれてしまう！！
果たして、マリオは強くなれるのか！！

第零話「プロローグ」（前書き）

この小説は前作【Red tornado 赤い竜巻・マリオ】の続編です。

あのマリオがまたまた大暴れますので楽しみに！！
それでは、第零話^{プロローグ}をご覧ください。

第零話「プロローグ」

〽キノコ王国・上空〽

ドルピック島へ向かう航空機。

その機内でハイジャック事件発生!!

ハイジャック犯A「グヒヤヒヤヒヤ……この飛行機はもらったぜ!!乗客の命こいつらが欲しければ、現金一兆コインと逃走用のスペースロケット、それと国王の首だ!!」

ハイジャック犯B「おら、さっさともってこいよ。後1800秒で持つてこないと皆殺しだ!!」

機長「そんな……30分じゃないか。そんな短時間で用意できないよ……」

ハイジャック犯C「るせえ!!俺達は時間がないんだよ!!」

ハイジャック犯A「用意が出来ないならまずは誰から殺そうかなあ……」

ダアアン!!

ハイジャック犯Aは持っているショットガンで隣にいた女性を撃ち殺してしまう。

女性客A「キャアーーーー!!!!!!!!」

男性客A「よっ……よくも!!」

ハイジャック犯B「ほう、俺達とやり合う気か。いいだろう!! 相手してやる!!」

ズツダツダツダ!!

ハイジャック犯Bは今度はサブマシンガンで立ち上がった男性客を返り討ちにした。

男性の左胸から鮮やかな赤色の湖が出来る。

ハイジャック犯C「カカカカカカカカ……!!!! どうだ、俺達に逆らうとどうなるか分かったか!!」

子供客A「フエーン!! フエーン!! フエーン!!」

恐怖のあまり、ハイジャック犯Cの隣で3歳ばかりなる子が泣き出す。

母親がなだめるが、全く泣き止まない。」

ハイジャック犯C「うるさい!!」

バキーン!!

なんとハイジャック犯Cは子供の頭をアサルトライフルで撃った。子供の頭は破裂、さらに貫通して母親の左胸も貫通した。

ハイジャック犯A「グヒヤヒヤヒヤ!!」

ハイジャック犯B「ガババババババ!!」

ハイジャック犯C「カカカカカカカ!!」

???「おいおい、さつきから聞いてりやお前ら理不尽なことばかり言ってるじゃねえか!!」

高笑いするハイジャック犯どもの前に、一人の男が立ちはだかつた。

ハイジャック犯A「何だ、テメエは。」

???「名を名乗るほどじゃねえよ。それより、お前ら、よく考えてみる、後1200秒で一兆コインとロケットと王様の命出せって言われても、たとえどつかのハリネズミでも無理だ。

お前ら、本当の目的はここにいる乗客だろ。」

ハイジャック犯B「ガバババババババ!!その通りだよ!!俺達はこの世界の頂点になるんだ。

下等生物を滅ぼし、世界中の王に絶望というデイナーを与えてじわじわ殺す……」

ハイジャック犯C「あの偉大なる“マリオ”様の成し遂げられなかった夢を俺達が実現するんだ

???「その名を言うんじゃねえ!!」

次の瞬間、男の蹴りがハイジャック犯Cの顔面に直撃!!
あっという間にハイジャック犯Cを血祭りにあげた。

ハイジャック犯A「キサマア……よくも俺達の仲間w

???「人を平気で殺すような奴が仲間とかどうとか言っな!!」

今度は強烈なナツクルがハイジャック犯Aの首に炸裂！！
その時、バキッという音と共にハイジャック犯Aの首の骨が粉碎された。

???「後はお前だけだ。」

ハイジャック犯B「へへへへへ、それで俺達に勝ったつもりか。俺はサブマシンガン持つてんだぜ。

お前なんか一発で地獄逝きだ。
アンダーランド
くたばれ！！」

ハイジャック犯Bはサブマシンガンを男に向ける。

???「みんな伏せろ！！」

ズツダツダツダツダツダ！！！！

サブマシンガンから幾多の弾が発射される！！

ところが、男はその弾の動きを見切り、軽々とかわしていく。
そして……

カチャカチャカチャカチャカチャ……

ハイジャック犯B「あれっ……弾が……」

???「終わりだ！！」

ハイジャック犯Bが気がつく、男は彼の目の前にいた。
そして男の右手には炎が湧き出る！！

ハイジャック犯B「ぎゃあああああああ………

↓ドルピック空港・滑走路↓

ドルピック空港・滑走路

そこには、ハイジャックの知らせを受け、ドルピックSWAT部隊と警察関係、その他野次馬どもが集まっていた。

そして、ドルピック空港に航空機が到着する。

SWAT1《こちらはドルピック警察。命が惜しければ武器を捨ててそこから出てきなさい。》

すると、航空機の扉が開き、中からさっきのハイジャック犯3名の無残な死体が放り出された。

SWAT2「なっ……なんだ、こいつ等……」

SWAT3「まさか、犠牲者……」

SWAT4「ばか。よく見る。この覆面はどう見たってこいつ等がハイジャック犯じゃねえか。」

SWAT5「しかし、誰に殺られたんだ??」

SWAT1「とっ、とにかく、確保!!」

警察や野次馬どもがハイジャック犯の死体に目を向けている隙に、あの男は……

???「よし、入国成功だ。ハイジャックの騒ぎがあってラッキー

だっ
たぜ。
さてと……」

男は誰にも見つからぬよう、
空港を後にした。

……続

第一話 「到着！！ドルピック島」(前書き)

～前回のあらすじ～

ドルピック島へ向かう航空機内でハイジャック事件発生！！

好き勝手やり放題のハイジャック犯にとある男が立ち上がる！！

そして、航空機が到着する頃、航空機からハイジャック犯3人の死体が放り出された……

そして、その男は南国の地へと降り立つ！！

第一話 「到着！！ドルピック島」

～ドルピックタウン・市街地～

住民A「いらっしやいいらっしやい！！安いよ安いよ！！」

住民B「今日仕入れた新鮮なパイナップルだよ！！買わなきゃ損
！！」

住民C「泥棒！！こら待て泥棒！！」

キノコ王国の南の果て【ドルピック島】。

そこには頭にやしの木を生やした【モンテ族】、貝殻のような姿をした【マーレ族】が住んでいる。

そんな美しく平和なドルピック島にまたまた事件がおきた。

ズドドドドドドドオオオオオ

突然ドルピックタウンの建物が次々と破壊されていった。

その爆煙から出てきたのは……

ペケダー（前作第三話～四話）「地獄の底から蘇ってきたぜ！！」

あつ、勝手に生き返るんじゃないよ。

ペケダー「うるせえ！！黙れ赤点作者が！！」

ンダトオ！！

モンテ族A「やつ、やめるんだな！！この町で暴れないでほしいん

だなー!!」

ペケダー「黙れ肉の塊が。俺は全身兵器で出来ている兵器人間となつたのだー!!」

人間じゃないやん。

ペケダー「細かいことは気にするな!!とりあえず、その肉の塊逝け。」

すると、ペケダーの右腕が一瞬にしてレーザー銃と変わり、モンテ族Aの額を撃ち抜いた。

モンテ族Aの口と額から鮮やかな赤の物質が大量に吹き出る!!

ペケダー「見たか!!この俺に逆らうと、お前らもただじゃすまねえぞ!!ヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ!!」

モンテ族B「おい、どうするんだよ。」

マーレ族A「あんた行ってよ!!」

モンテ族C「やだよ。おいら逝きたくない。」

マーレ族B「この島がぶん取られていいの??」

モンテ族C「それは……嫌だよ!!」

ペケダー「どうしたどうした!!この島が惜しくないのか??」

住民たち「……ぐう……」

ペケダーの力の前に、なすすべもないドルピック島住民。
モンテ族Aの周りには、すでに赤い湖が出来上がっていた。

ペケダー「そうかそうか。ならば今日からこの島は国王であるこの俺、ペケダーが治める“大ペケダー帝国”だ!!」

???「んなもん、させるわけないだろ!!」

突然町に男の声が響き渡った。

ペケダーが振り向くと、そこには、ハイジャック犯を全員血祭りに挙げた、あの男が立っていた。
それは、ペケダーがよく知る人物だった。

ペケダー「おつ、お前は!!」

???「久しぶりだな。ペケダー。」

ペケダー「ばつ、馬鹿な!!お前はあいつ等に殺されたはず!!」

???「俺があんな簡単に死ぬと思ってんのか???つーかそれはこっちの台詞だ。」

ペケダー「へへへ、驚いただろ。俺はあの時確かに死んだ。しかし、あるお方の究極な科学力で、俺は兵器人間として生まれ変わったのだ!!」

???「お前、人間じゃないだろ。」

ペケダー「その突っ込みさつき作者から受けたわ!!……まあいい。

この体になつたから、もうお前には負けない。お前は俺の手によって逝くんだ！！くらえ！！」

ペケダーの左腕が一瞬にしてミサイル砲に変わり、男目掛けて追尾ミサイルを発射した。

???「ふん、その程度で俺を殺せるとでも思ってるのか！！」

ペケダー「余裕こいてられるのも今のうちだ！！このミサイルは命中率100%、威力1000%の世界最強のミサイルだ！！逝って後悔するんだな！！」

そして、ミサイルが男に直撃する……………！！！！！！

ガシッ

ペケダー「なっ！！」

なんと！！男はミサイルを右手で掴み取っていた。

男の顔は、明るかった。

???「言つただろ、その程度で俺を殺せると思ってんのかって。これは返すぜ。」

そういつと男はミサイルをペケダーに投げ返す！！
ミサイルは美しい軌道を描きながらペケダーに直撃し、
爆発した。

ペケダー（そんな……兵器人間となった俺が、こつも簡単に負けるなんて……オノレエ、いつかまた生き返って、必ずお前に復習する！！）

マリオ！！）

住民たち「うおおおおお！……！！！！！！！！！！」

ペケダーが逝った後、ドルピック島住民達から歓声が上がった！！
そして、建物の影から目を光らせてマリオを見るマーレ族の少年
がいた。

マーレ族の少年「かつ、かつこいい……」

くドルピツクタウン・宿く

マリオ「ふう……ドルピック島滞在初日から血を見るとはな。」

マリオは部屋の窓に見える月を見ながらつぶやく

続

第一話 「到着！！ドルピック島」(後書き)

↓登場人物紹介↓

『マリオ』

ご存知、この小説の主人公。

世界中を駆け巡り、Royal flushを倒すため修行の旅を続けている。

第二話「いざ、正道場へ」（前書き）

～前回のあらすじ～

ドルピックタウン市街地で器物破損及び殺人事件発生！！

ドルピック島を我が物にしようとする犯人【ペケダー】に、ハイジャック事件を解決（？）したあの男が立ち上がった。

数十秒後、ペケダーは自らが放ったミサイルを跳ね返されて死亡。

男は、一躍ドルピックタウンのヒーローとなった。

その男の名は……マリオ。

第二話「いざ、正道場へ」

（翌日）

マリオ「ハイジャックやらペケダーやらで気付かなかったが、暑い！！南国だって冬だろ今！！」

キノコ王国が現在冬の為、厚着で来てしまったマリオ。それはもう地獄のように暑い。

マリオや、現実の世界とお前の世界とは季節関係がない。つーか、暑かったら脱げよ。

マリオ「さつさと道場探して破らないとな……」

ああ、全然聞いてないわ。

マリオは道場を探してどこかへ行ってしまった。

場所が変わり、ここはドルピック島の活火山【コロナマウンテン】。

その奥に、どうやって建てたのか、マグマの上に謎のアジトが浮いていた。

?????「ペケダー、また殺されたか。しかも同じ奴に……」

ペケダー「申し訳ございません。」

そのアジトには、謎のマシンに体を固定されたペケダーと、全身機械で機械の杖を持った男がいた。

????? 「いいか、これが最後のチャンスだ。失敗すれば次はないと思え……」

そういつと全身機械男はペケダーを固定しているマシンのスイッチを押す。

するとマシンは不気味に動き出し、ペケダーの体に異変が……

マリオ「ワールドジムリーグ“WGL”公認道場【サウス道場】か……」

看板を読み上げるマリオ。

どうやら目的地に着いたようだ。

ちなみにWGLとは世界道場連盟のことで、世界の道場をよりよい道場にするために立ち上げられた連盟である。

その連盟に公認された道場は【レギュラージム正道場】と呼ばれ、そこにいる弟子と師範、そして正道場の看板を持つ者のみがWGL公式大会【グレートフルコロシウム】に出ることが出来る。

また、その連盟に認定されていない道場を【サイドクラス三流所】、何らかの理由で追放された道場のことを【ダイクジム闇道場】という。

闇道場の多くが、犯罪者達の集まりである。

そして今日が、マリオの正道場破り初挑戦である。

マリオ「頼もうー!」

マリオの正道場破りが今、始まる！！

時を同じくして、キノコ王国・とある男の家……

タタタタタタタタタタタタタタ………
パソコンのキーボードを打つ音が家中に鳴り響く。

????? 「^{ながつき}長月 ^{いっさ}一茶」の情報が1週間ほど更新されてないな……
…あいつなら毎日の様にやっているはずだが………」

WGLの公式サイトを回覧する男。

項目は長月 一茶。有名な道場破りの一人で、一月の頭から活躍している男である。

今まで狙った道場は全て三流所であったが、物凄い速さで破っていく為、一躍有名になった。

しばらくし、男はある気になる項目を見つけた。

それは、闇道場の目撃情報だった。

????? 「(うわっ、闇道場ってこんなに大量にあるのか……

あいつ、大丈夫かな……

えーっと、最新の項目は………！！ドルピク島???

そこって、今あいつが………」

男はドルピクタウンの闇道場目撃情報を調べた。
すると、そこには……

「名前」Mrs^{ミセス}・マーレ

「投稿日」2010/1/3

「本文」

昨日、ドルピック島が男に襲われました。

建物は壊され、人が殺され、ドルピック島は今にも占領されそうになりました。

そこへ現れたのは、赤い帽子と赤い服の男が現れて、ドルピック島を救ってくれたのです。

しかし、私は見てしまったのです。

ドルピック島を襲った男……あれは間違いなく、闇道場「メガバッテン」の刺青でした……

?????「メガバッテンって、あの“ゴロツキタウン事件”の……！
大変だ！！一茶……いや、マリオ……！」

………続

第二話「いざ、正道場へ」（後書き）

～登場人物紹介～

『ペケダー』

前作から登場しているマリオの敵の一人。

今の地点で2回死んだ。

情報によれば、【メガバツテン】という闇道場のメンバーらしい。

第三話「勝ち抜け！！正道場」（前書き）

〽 前回のあらすじ〽

マリオが道場を探している間、【コロナマウンテン】の奥地では、謎のアジトがそびえ立っていた。

そこには謎のマシンに体を固定されたペケダーと、全身機械で機械の杖を持った男がいた。

機械の男は謎のマシンでペケダーを改造する……

場所は変わり、キノコ王国。

とある男が^{ワールドジムリーグ}WGLのサイトを観覧していると、何らかの理由で追放された道場【^{ダークジム}闇道場】目撃情報でドルピック島に出現した凶悪闇道場【メガバッテン】の事を知る！！

第三話「勝ち抜け！！正道場」

～WGL公認道場・サウス道場～

弟子モンテZ「ギャボツ……………」

マリオ「なんだ、全員手ごたえがないじゃねえか。」

マリオに投げ飛ばされた弟子Zが宙を舞い、床に突き刺さる。
その他に、他の弟子たちが床に突き刺さっていた。

師範モンテ「うむむ……………30秒で弟子を全員打ち負かすとは……………いいだろう、今度は我自ら相手になってやる。」

マリオ「おいおい、あと一人向こうに隠れてるぞ、あいつもこの弟子じゃないのか??」

マリオの言うとおり、道場の柱の陰に一人、ぶるぶる震えている少年がいる。

小柄で貝殻のような姿をしており、マーレ族だと思われる。

マリオ「おい、そこのお前、お前もこの弟子なんだろう、かかってこいよ。」

マーレ族の少年「うつつ……………」

師範モンテ「あいつか、ほおっておけ、アイツは半年前この道場に
来たが、臆病者、泣き虫、雑魚の正道場^{レキコラージム}に相応しくないマイナス要素がそろっている。

今でも強くなる気配は一行に見られない。いわゆる……
観 察 処
分 者
だ。」

マリオ（吉井。久???!!）

マリオは、某深夜アニメの主人公であるバカの代名詞が頭に浮かぶ。

師範モンテ「と言う訳で、最後はこの我、【モン・テ・バロルド】が相手なるぞ!!」

はああああああ!!!!!!!!

サウス道場師範【モン・テ・バロルド】は雄叫び(?)を上げ、拳を高く上げ気合を高めた!!

マリオ「へっ、そういう事ならしょうがないや、かかってこいや、1分であいつ等のように床に突き刺してやる!!」

マール族の少年（ああ、せっかくあの人が目の前にいるのに……僕は……）

↓サウス道場・入口前↓

マリオとモン・テ・バロルドがサウス道場で激闘を繰り広げてい

第三話「勝ち抜け！！正道場」（後書き）

～登場人物紹介～

【モン・テ・バロルド】

正道場『サウス道場』師範。
ただ、それだけ。

第四話「強襲！！メガバツテン！！」（前書き）

〽前回のあらすじ〽

レギュラージム

正道場【サウス道場】の道場破りを順調に進めていくマリオ。

しかし、そこにメガバツテンの魔の手が！！

第四話「強襲！！メガバツテン！！」

変な奴A「ヒヤアハハハハ！！！！メガバツテンだ！！」

変な奴B「マリオを出せえ！！」

巨大な爆発音と共に大量の変な奴等〃メガバツテンがサウス道場に押し寄せてきた。

マリオ「なっ、何だ！！」

モン・テ・バロルド「あいつ等……あの服装！！間違いない、メガバツテンだ！！皆逃げ…グハア！！」

マリオ「おい、テメエ！！」

マリオが叫んだ。しかし、バロルドの意識はその時完全に途絶えていた。

メガバツテンの戦闘員が放った銃弾を左胸に被弾したのだ。

マリオ「キサマ等！！せつかくの俺の正道場破りデビュー戦を台無しにしゃがつて！！覚悟は出来てんだろうな！！」

戦闘員A「ああ、そのつもりだ、俺達はお前を殺しに来たのだよ、マリオ！！」

マリオ「（うっ、どうしてその名を……偽名がばれたか？）ふん、俺目当てか、いいだろう、久々にあの特技を出すか……」

ガルフ」様のお力により最終形態へと化したのだ……」

マリオ「……お前、口調といい台詞のカギカッコが二重山カッコに変わってるぞ。」

ペケダー「そんなことはどうでもいい……見よ、これが我の最終形態だ……」

ペケダーがそう叫ぶと、ペケダーの体に異変が……

ペケダーの体が徐々にむくれあがり、途轍もなく恐ろしい姿へ……

マリオ「……ただでかくなっただけじゃねえか……最終形態が巨大化って戦隊物かってんだこのヤロオ……」

ペケダー「ハハハハハ……お前、ただでかくなっただと思うな……でかくなったという事は、

内蔵されている兵器の数と大きさもでかくなったという

ことだ……

くらえ……」
『エレクトリックランチャーVer.180』

……」

ペケダーの背中から巨大な砲台が登場したかと思うと、砲口から雷を帯びたロケットがマリオ目掛けて発射された……

しかし、マリオは余裕でロケットを回避する……

マリオ「ペケダー…今度こそ再起不能にしてやるぜ!」
………続

第四話「強襲！！メガバツテン！！」（後書き）

～必殺技紹介～

レッドトルネード
『赤い竜巻』

マリオの必殺技。

両手から巨大な炎の竜巻を放ち、敵を一網打尽にする。
実は他の小説にも登場します。

第五話「ペケダー、最期の戦い 前編」(前書き)

〽 前回のあらすじ〽

性懲りもなくマリオに戦いを挑むペケダー。

マリオVSペケダー、これが最後だ!!

第五話「ペケダー、最期の戦い 前編」

「サウス道場」

マリオ「来い！！」メテオデストロイ『隕石破壊』！！」

マリオがそう叫ぶと、突然天井が粉々に碎け、空から超巨大なハンマーが降ってきた！！

ハンマーはマリオの前に落ちると、マリオはそのハンマーをつかみ、右手で軽々と持ち上げた。

隕石破壊については前作を参照。

マーレ族の少年「すっ……すごい、あのハンマー、？はいくぞ！！」

マリオ「久しぶりだな、この超兵器を使うのは。」

ペケダー「ただのハンマーが超兵器だと……ばかばかしい。

超兵器とは、このことを言うのだ。『二億アンペアAプラズマ砲 Ver.21』！！！！』

ペケダーの左腕が菱形の砲台へと変わり、電気を帯び始め、一気に雷のレーザーを発射する！！

が、それをハンマー片手に難なく交わすマリオ。

マリオ「へっ、ホントはお前なんか俺の超兵器を使うまでもないが、俺も時間がないんだ。

チャッチャと決めさせてもらっぜ！！お前の頭、3秒後に木っ端微塵だぜ！！！！

『エクセレントスマッシュ』！！」

隕石破壊が赤く光りだし途轍もないパワーを放った。
マリオはそれをペケダーの頭に思いっきりぶつけた！！

…
がっ
！！

ばりっ！ばりばりばり……ガシャアアア……

マリオ「なっ……」

マーレ族の少年「マジでえ!!」

なんと、木っ端微塵に砕けたのはペケダーの頭ではなく、超兵器隕石破壊の方だった！！

さすがのマリオもこれには啞然する。

ペケダー「3秒……経ったぞ。」

マリオ「くっ……くっ」

ペケダー ≪ 五億 ヴナツクル ≫
ポルトビクトリー
!!!!!!!!!!!!!!

マリオの目の前に、ペケダーの稲妻のはしる拳がぶち当たった！！マリオは大きくぶっ飛ばされ、サウス道場の大黒柱にぶち当たり、破壊した。

その途端、サウス道場が跡形もなく崩れ去った！！

マリオ「ああああああ！！！！！！」

ペケダー 《ハハハハハハハハハハ！！！！！！！！！！》

マーレ族の少年「ヒエエエエエ！……！！！」

何ということだ、あのマリオが過去二回も圧倒したゴミ虫野郎に、
今度は完全に圧倒されているのだ！！

ペケダー「そうだ、我はもはやかつてのペケダーではない……」

ならば我はペケダーの名を捨てる……

世界を制す者、我の名は『E・ペケダー』だ！！」

結局“ペケダー”の字が入ってるじゃねえかよ。

マリオ「テメエ、粹がりやがってえ……」

E・ペケダー「『エンペラー・サンダー
皇帝の雷』」

ペケダーは右人差し指をマリオに向けると、突然天から半径20
mの雷がマリオを襲う！！

並みの人がくらったら……死あるのみである。

マリオ「グハッ……！！……」

マーレ族の少年「ああ……」

E・ペケダー「勝負あった……な。」

……… 続

第六話「ペケダー、最期の戦い 後編」

エンペラー
E・ペケダー《勝負あった……な。》

マリオ「……………ウググ……………」

突然強くなったペケダーの前になす術がないマリオ。
しかし、そんなマリオにE・ペケダーは容赦なく襲い掛かる！！

E・ペケダー《『ビリオンガトリング十億機関銃』！！」

E・ペケダーの口から銃口が飛び出し、機関銃のごとくマリオに
発砲した！！

マリオ「！！！！」

マリオは辛うじて銃弾をかわすも、五話の『エンペラー・サンダー皇帝の雷』の影響で
徐々に生命力を奪われている。

E・ペケダー《ハハハハハ！！！！まだ抵抗を続けるつもりか、世
界を制す者となった我にキサマラ下等生物がかなうはずなかるう！
！》

マリオ「お前は機械だから生物もクソも言えねえだろ！！」

E・ペケダー《喧しいわボケ！！我に口答えするとは……………そこまで
して我に殺されたいのか……………》

最強の存在、無敵の存在となったこの我に！！
『エンペラーズ・アイ皇帝の眼差』！！》

E・ペケダーの目が妖しく光ると、そこから巨大な破壊光線が発射された！！

マリオは皇帝の雷の影響で身動きがとれず、正面からモロにくらってしまった！！

マリオ「あっ……ああっ……！！」

マーレ族の少年（どどど……どうしよう、あの人が大ピンチだ、あの機械の奴、物凄くつよ……

機械？？………そうだ！！）

突然マーレ族の少年が瓦礫の影から飛び出し、E・ペケダーの前に立ちはだかった！！

マリオ「………お前は………観察処分者………」

E・ペケダー「何だ、この道場の生き残りか。だがお前に用はない。消えろ。」

マーレ族の少年「やい、図体だけのガラクタ野郎！！今度はこのぼくが相手だ！！」

何てことを言っただ少年！！

マーレ族の少年「このおじいちゃんの形見のブーメランでお前をやっつけてやる！！

いけっ！！『マーレブーメラン』！！」

マーレ族の少年はE・ペケダーを挑発するやいなや、いきなり持

っていたブーメランをE・ペケダーに投げつけた！！

ブーメランの先から噴出する水によりブーメランは回転力を増し
！！E・ペケダーに打ち当てた！！

無論、ダメージ0。

E・ペケダー《ハハハハハハハ！！！！何かと思えばそんな雑
魚攻撃か！！

笑わせてくれるにもほどがある！！

だが、その根性を称えてお前をその凶悪犯罪者マ
リオと共に地獄へ落ちるがいい！！》

マリオ「……………小僧、逃げろ……………」

マール族の少年「へっ、やれるものならやってみろこのボンコツ！
」

E・ペケダー《逝けっ！！『皇帝の眼差』！！》

……………

E・ペケダー《……………。》

マリオ《……………。》

……………あり??

E・ペケダー《何故だ！！何故皇帝の眼差が出ない??！！！！

燃料は残っているはずなのに！！

ええい、次こそ逝けっ！！『エレクトリックランチャ

I Ver.352』！！》

E・ペケダー

マリオ 《.....》

れ
れ?
??
???
????

.....れ

[illegible]

E・ペケダー

マリオ ㄱ

[illegible]

E・ペケダー《何故なんだあああああああああ！！！！！！！！！！！》

マーレ族の少年「くらえ！！『マーレスターツブ』！！」

マーレは近所のおじさんの形見のナイフを握り締め、E・ペケダーの破壊点を刺す！！

どこがE・ペケダーの破壊点なのかは、放送禁止用語になるので言えない。

E・ペケダー《ぬおおおおおお！！！！！！！！！！》

E・ペケダーは可哀想なくらいの断末魔を上げ、そして……

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオ……………

爆発した。

マーレ族の少年「ふん、当然の結果だ……………」

マリオ（どつかで聞いた事ある……………）

すると、爆煙の中から何かが出てきた。

それは、機械の体を破壊されてE・ペケダーではなくなったペケダーがはって出てきた。

マーレ族の少年「あつ、生きてた。」

ペケダー「キサマラ……………コレデオワリダトオモウナヨ……………」

マリオ「台詞が片仮名になっている……………」

マーレ族の少年「この地球上の生き物をやめた奴の成れの果てだ。」

マリオ（お前、随分キャラが変わったな……）

ペケダー「ワレヲオシテモ、ワレラメガバッテンノイダイナルソ
ウトウバツガルフサマニヨリ、オマエラハシヌコトニナル……」

マール族の少年「負け惜しみだよ……どうぞ、潰してください。」

マリオ「じゃあ、ご遠慮なく。」

ブチッ………

………続ゾクするねえ（黙）

第七話「こちらドルピック島観光協会（違）」（前書き）

エンペラー

E・ペケダーとなり、マリオに怒涛の攻撃を仕掛け、ついにマリオを追い詰めることに成功。

しかし、後一步のところで乱入してきたマール族の少年の策略にはまり、あえなく敗北。

その後、マリオによってペケダーはこの世から永遠に葬り去られたのであった。

第七話「こちらドルピック島観光協会（違）」

～廃墟（元サウス道場）～

マリオ「あゝあゝ、せっかく正道場レギュラージムデビュー戦が……

畜生！！メガバツテンだかなんだか知らないけど、見つけたら“無”の存在に知ってやるぜ！！」

マール族の少年「そつ、その意気ですよ！！えーつと………」

マリオ「俺の名か、いいか俺の名は長月ながつき 一茶いっさだ。」

マール族の少年「僕は『マレ山マレ蔵』です。マレ蔵と呼んでください。」

マリオ（随分古典的な名前だなあ。）

マレ蔵「そつだ長月さん、せっかくですからこのドルピック島を観光しませんか??」

マリオ「いや、この島にはもう正道場はない。悪いが次の飛行機でここを出る。」

マレ蔵「えゝっ！！そんなこと言わずにゝ。ここはリゾート地が多いから楽しいですよゝ。」

今なら小説の外の世界と季節感が一致してますし、行きましようよゝゝ。」

マリオ「なれなれしいなお前、さつきからコロコロキャラ設定変え

やがって、多重人格じゃねえんだから。」

マレ蔵「しつげえんだよ。ドルピック島を観光しねえ馬鹿はいねえよ!! さつさと観光するといいやがれ!!」

(やつは多重人格だああああ!!!!!!)

と言う訳で、多重人格・マレ蔵によりしぶしぶドルピック観光することとなった長月 一茶ことマリオ。

〜ドルピック島・ビアンコヒルズ〜

巨大風車が湖の中ほどにそびえ立つ丘陵地区。
モンテ族の別荘地として人気がある。

マリオ「^{サードクラス}たく、三流所は雑魚くてしょうがねえや。」

ビアンコヒルズ三流所師範「2秒で負けました……」

マレ蔵「長月さん、観光と言っておきながら何やってるんですか!!」

マリオ(100%お前が強制したじゃないか。)

マレ蔵「長月さん、次はあの巨大風車行ってみましょうよ!!」

マリオ(お前が楽しんでるんじゃない!!)

〜ドルピック島・リコハーバー

漁港でイカが名産でジャングルジムのような鉄骨が立ち並ぶ。
イカに乗り水上を走るイカサーフィンが盛ん。

マレ蔵「長月さん、ジューサーがありましたよ！！ここから果物が
出てくるんですけど……」

故障中・たぶん一生直んねえよ。

マリオ「一生直んないのかよ。さっさと撤去し」

マレ蔵「オラアア！！このボンコツが！！さっさと果物出しやがれ
！！」

喰らえ！！隣町のジョニー君の形見のハンマー！！」

マリオ（隣町のジョニーって誰だああああ）

この後、リコハーバーに果物雪崩警報が発令しました。

〜ドルピック島・マンマビーチ〜

美しい海水浴場。

中心には、光を集める鏡に囲まれた【太陽の塔】があり、【おお
すなどり】の卵が奉られている。

砂浜には【砂山の芽】があり、水をかけると砂が急に盛り上がる。
海には危険なサンゴ礁がある。

マリオ「たつ、太陽の塔???！おいおい、太陽の塔って確かJapanにあるんじゃないのか??」

マレ蔵「Japanに亜米利加の某銅像があるのと同じことだよ。」

マリオ「そんなんで片付けちゃっていいのか??」

〜ドルピック島・ピンナパーク〜

マレ蔵「ピンナパークはドルピック島の唯一の遊園地なんだ。」

Japanの某遊園地にも絶対負けないよ。」

マリオ「あゝ!?!あんな所に電気ガメが巢食つてる!?!」

園長「平気平気。」

マリオ「観覧車が新幹線並みに動いている!?!」

園長「平気平気。」

マリオ「あんな所に血に餓えたヨッシー達が!?!」

園長「平気平気」

血に餓えたヨッシーA「キシヤアアアア!?!」

- - - - -しばらくお待ちください - - - - -
- - - - -

マレ蔵「まあ、当然といえば当然だな。」

マリオ「小さなお子さまが見てませんように……………」

くドルピック島・シレナビーチく

夕日が見えるビーチに『迷宮ホテル・デルフィーノ』が建っている。

ホテル内はカジノやプールもあり、かがり火が多く炊かれている。

マリオ「日が暮れてきたな。今晚はこのホテルで泊まるか。」

マレ蔵「ええっ！！このホテルはやめたほうがいいと思う。」

マリオ「何言ってるんだ。ホテルなんてみんな同じだろ??」

マレ蔵「いや、あそこのホテルのオーナーは……………ってもういねえし！！」

く数時間後（日はすでに暮れた）く

マレ蔵「ほら見る、だからやめたほうがいいって言ったでしょ。」

デルフィーノから、全身ボロボロのマリオが帰還。

マリオ「くそお！！ホテル内で迷子になるわオーナーはうざいわ、

金はぼったくられるわー！

あんなホテル二度と行くかー！」

マレ蔵「ギャーギャー言っても仕方ありませんよ。

さあ、次はいよいよ僕のふるさともある【マレーのいりえ】ですよ。

とてもいいところなので絶対行きましょうー！」

ゝそして、マレーのいりえゝ

マレ蔵「……………」

彼は絶望した。

今、目の前に起きている光景に。

マレ蔵「なんじゃこりゃああー！！！」

……… 続

第八話「The island that dyes red」

～マールの入江～

マリオ「ほう………ここがお前の言う“とてもいいところ”ねえ。」

マレ蔵「……違う……マールの入江はこんな………」

「こんな血の海じゃない!!」

マールの入江。

本来ここは、険しい崖に滝が流れ、貝殻を模した塔が二本海上にそびえる遺跡があるドルピック島観光スポットの一位二位を争う場所であった。

……が、そこに広がっていたのは赤い水が流れ、無残に殺されたマール族が転がっている“この世の地獄”であった。

マレ蔵「みんな………みんな殺されたんだ!!」

「!!!、アンジェリカ!!アンジェリカ!!」

マレ蔵は、アンジェリカと呼ばれる赤マールの元へ駆け寄る。どうやら彼女はまだ息があるらしい。

マレ蔵「アンジェリカ!!しっかりしろ、アンジェリカ!!」

「教えてくれ!!誰にやられた!!」

マリオ「おいおい、瀕死の奴はあまり喋らせない方が。」

元殺人鬼のお前が言うな。

従業員 A「化け物だあああ!!」

従業員 B「いやだ……まだ死にたくないッ!!……ギヤアアアアアアア!!……」

従業員 A「さっ、サンジェル!!」

誰だよサンジェルって。

ホテルオーナー「みんな、こっちだ!!」

従業員 C「オーナーだ!!」

従業員 D「助かった!!」

ホテルオーナー「……フッフッフ、うしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃ!!……」

従業員 A「……、まさかキサマ!!」

従業員 C「だとしたらオーナーは!!」

オーナー（偽）「フッフッフ、すでに殺った……」

従業員 D「よっ、よくもオーナーを!!」

オーナー（偽）「残りは君たちだけだよ……」

黄泉の国でお幸せに??」

従業員 A・C・D「イアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！」

グシャギヤアアア

この日、ホテル・デルファイノは真っ赤に燃え上がった。

..... 続

第九話「第三の殺戮」（前書き）

～前回のあらすじ～

マール族の少年【マレ蔵】に半ば強制的にドルピック観光をさせられるマリオ。

しかし、マールの入江で謎の殺戮事件が発生！！

その後、迷宮ホテル・デルフィーノにも犯人の魔の手が……

第九話「第三の殺戮」

〽翌日・ドルピックタウン・マリオが泊まっている宿〽

マリオ「昨日未明、シレナビーチの迷宮ホテル・デルフィーノでホテルのオーナー及び従業員の虐殺事件が発生、全員皆殺し。犯人は今だ見つからず」……か。

マールの入江の他に、虐殺事件の標的になった場所があったとは……」

ドルピック新聞朝刊には、昨日の事件の事が書かれていた。

マリオ（この島に一体、何が起きているんだ……）

空は日が昇り始めた淡い色をしていた。

〽ドルピック島・ピンナパーク〽

従業員A「園長……従業員の過半数が殺られました……」

園長「平気平気。」

従業員B「園長……アトラクションの過半数が侵略されました……」

園長「平気平気。」

従業員C「平気平気って、テメエ、この状況を何にも分かってねえな……」

57

件で名を轟かせた凶悪な闇道場さ。」

マリオ「ごろつき……たうん??」

????「ああつ、あんたにや事件のことから話とかないと……」

ゴロツキタウン事件……

ゴロツキタウンとは、マフィア、盗賊団などが巢食う犯罪の街。
街のシンボルは絞首台www

街の地下には「1000年の扉」があり、大昔に沈んだ大都市の
遺跡がそのまま地下に残っている。

それをあろう事かメガバツテンは扉をこじ開け、中に眠る悪魔の
封印を解いてしまったのだ。

????「メガバツテンの総帥の名はバツガルフ、【魔法科学専門
大学】出身で卒業後から事件まで行方不明だったらしい。」

マリオ「そいつの名前だけなら、この間潰したペケダーから聞いた。
」

????「ペケダーか、懐かしいな。キノコ学園以来だな。」

マリオ「バカ、思い出話に浸っている場合じゃねえよ、実はな、こ
の近辺で一エリア単位の殺戮事件が起きている。何か、人の姿に化
けて命を食い殺す……そんな奴が犯人らしい。」

メガバツテン
これも奴等の仕業なのか調べてくれ。」

????「……分かった。」

ガチャリ……

マリオ「……………」。

部屋に沈黙が戻り始めた。

空は徐々に本来の青色を取り戻しつつあった。

……… 続

第十話「動き出す者共」

くドルピック島・ビアンコヒルズく

例の大量殺戮事件は、こののどかな地にも届いていた。
今やドルピック島はいつ滅ぼされるか分からない恐怖の孤島と化している。

そして、とうとうこの地にも……

???「……………フフフフフフ、怯えてる怯えてる。

溜まつてるよ……………チミ達の負のエネルギーが……………

そのエネルギーが僕を強くするのさ???

さてと、楽しい殺戮ショーのはじま」

と、その時!!

バスッ!!

突然どこからともなくブーメランが飛んできて、???の後頭部に直撃した。

???「グフッ……………おやおや、後ろから奇襲なんて最低だね。」

ブーメランは水しぶきをあげながら持ち主・マレ蔵の手へと戻ってゆく。

マレ蔵「最低???テメエに比べたらどうかと思うけど。

マールの入江や他の観光地を襲ったのはお前だな!」

???「うしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃし

や！！！！！！！！！

だって楽しいんだもん！！みんな信じていた友達に裏切られたような顔して死んでゆくんだもん！！

僕はそんな奴等の顔が大好きなのさ？？」

マレ蔵「黙れ！！お前だけは、絶対許さない！！」

くキノコ王国一角・とある家く

とある男「 “ゴロツキタウン事件” “メガバッテン” “変身能力” ……」

“ゴロツキタウン事件” “メガバッテン” “変身能力” に一致する情報は見つかりませんでした。

とある男「 ……駄目か。」

とある男はマリオに依頼され、謎の殺戮犯の手がかりを探っていたが、依然情報はつかめずであった。

とある男「くそお、早くどうにかしないとマリオやドルピック島がやばいというのに……………ん？？」

ふと、男の目にあるニュースが飛び込んでくる。

アナウンサー「昨日未明、ウスグラ村付近のオドロン寺院が老朽化によりついに崩壊しました。」

このオドロン寺院は今のゴロツキタウン事件と呼ばれる悪魔『影の女王』の乱に関連が深いとされる「ブタのために力ネはなる事件」において、伝説の赤の勇者が旅の仲間全員に裏切られたとして有名な……」

とある男「……オドロン寺院……ブタのために力ネはなる事件……仲間全員に裏切られた……！！！！！」

とある男は、ある答えにたどり着いた……

とある男「【ラ○ペル】……」

↓ドルピクタウン上空・航空機機内↓

クッパ「我輩は流離^{さすらい}のジャーナリスト・【クッパ】。

世界中を飛び回り、ビクナスクープを追い求めている。

我輩は今、ドルピクタウンでかの有名な闇道場^{ダークジム}・メガバツテンが行動を始めたという情報をキャッチし、現地に向かっているところだ。

そこにはなんと道場破り・長月 一茶もいるじゃないか。

これは大スクープが一気に2つも取れるじゃねえか。ガハハハハハ……」

ボデイガード
用心棒・ブロス「クッパ様、一体誰に話をしてるんですか??」

クッパ「読者の皆様に決まっているだろ、前作から久々に登場した

のに自己紹介なしじゃ困惑するだろ。

約一名、前作からの登場で名を伏せている奴があるが。」

用心棒・カメック「そんなの作者がやってくれるからいいじゃないですか？？」

クツパ「ふん、テスト週間にのうのとネットサーフィンしてる小僧に任せてたまるか！！」↑実話

用心棒・ブロス「そうゆうもんですかね。」

と、その時だった！！

ガシヤアアアン！！！！

突然何かが割れた音が機内に響き渡った。

機長「緊急事態発生！！緊急事態発生！！またしてもこの機内にハイジャックが……ゴハッ！！

突如、機長の断末魔が聞こえたかと思うと、今度は何故か老婆の声が聞こえてきた。」

老婆「ホホホホ、この機体はこのワシ等がいただいたわい。」

幼児（？）「んー、あー。」

クツパ「！！、きさま等はメガバツテン同盟闇道場【影参】！！」

シャドースリー

老婆「おやおや、わし等の事を知っているとは、ありがたいねえ。

だが、おぬし等には死んでもらうぞ。

この機体は今からドルピックタウンの中枢に突っ込んでしまうんだからな!!」

幼児(?)「んー、あー。」

乗客全員「「「「「ナンダツテエ!!」」」」」

用心棒・カメツク「クツパ様!!どうしましょう!!クツパ様!!」

クツパ「くそお、これをスクープにするか、命を守るか、我輩はどうすればいいのだ!!」

用心棒。ブロス、カメツク「「知るかあああああ!!」」

……… 続

第十一話「騒ぎ出す者共」

〜ドルピックタウン上空・航空機機内〜

クツパ「我輩は流離^{さすらい}のジャーナリスト・クツパ。

世界中を飛び回り、ビックなスクープを追い求めている。

我輩は今、ドルピックタウンでかの有名な闇道場^{ダークジム}・メガバツテンが行動を始めたという情報をキャッチし、現地に向かっているところ、謎のハイジャックに襲われている所だ。

バスジャックの主犯はメガバツテン同盟闇道場影参^{シャドースリー}

我輩はこんな大スクープを身近で感じたことはない！！ガハハハハハハ……………」

用心棒^{ボディガード}・ブロス「何のんきに喋ってるんだよ！！」

用心棒・カメツク「私達死ぬかもしれないですよ！！」

クツパ「何を言ってるんだ！！大スクープのためなら死ぬる。

それがジャーナリストの本望だ！！」

用心棒・ブロス、カメツク「絶対ヤダよ俺等！！」↑用心棒のくせに

と、いきなり一人の観光客が立ち上がり、交渉に乗り出した。

勇気ある観光客「やい、影参！！お前たちの要求なんだ！！」

老婆「要求？？そんなもの、お前等の命に決まっておるわい！！」

前回言ったように、この飛行機をドルピックタウンの中枢に

突っ込むってな!!」

幼児(?)「んー、あー。」

勇気ある観光客「そうすると、お前らも無事では済まんぞ!!」

老婆「大丈夫じゃ。わし等は“影”。

物理攻撃じゃ、決して死なぬわい!!」

幼児(?)「んー、あー。」

そんな中、このハイジャックに罪悪感を持つ三人目の影三メンバ
ー。

三人目(やつぱ……お姉様達を止めておくべきだった……)

その頃、機内では、勇気ある観光客がまた行動を起こそうとした。

勇気ある観光客「お前ら、このままじゃいずれ俺達は全滅だ。

かくなる上はこの機内から飛び降りるぞ!!」

他の観光客達「「「「「なぬうううううううううう」「「「「「

観光客A「ふざけるな!!どっちみち死ぬじゃねえか!!」

勇気ある観光客「心配ない、今この機内の下は海だ。

全員パラシュートをつけてこの下に飛び降りるぞ

!!」

観光客B「やだよ!!っーかなんでお前がリーダー面してるんだよ

!!
L

リーマン A「いや、助かる道は飛び降りるしかないな。」

リーマンB「お前、正気か??」

リーマンA「なあと、一種のギャンプルだと思えば怖くないさ。」

リーマンC「そういう問題じゃねえよ!!」

「勇氣ある観光客、さあお前ら、急いでパラシュートの準備だ！！」

クツパ（……こいつ、どこかで見覚えが……）

くその頃 ドルピック島・ビアンコヒルズく

大量殺戮犯に戦いを挑んだマレ蔵。

だ
が
:
:
:
:

マレ蔵「はあ……はあ……はあ……」

「……フッフッフ、弱いね、チミ。」

!!!、そうだ、僕いいことを思いついちゃった??

しせいせいせいせいせいせいせいせいせいせい

「!!!!!!!!!!!!!!」

マレ蔵「うっ、うわっ、ギヤアアアアアアアアアアアアア
アアア!!!!!

ドルピック島に、少年の断末魔がこだました。
そして、その断末魔はこの男の耳にも入った。

マリオ「……！、この声は……マレ蔵……！！」

まずいな、最悪の事態にならないうちに……」

だが、その願いは大きく崩されることになる……

……… 続

第十二話「マリオVSマレ蔵」（前書き）

〓 前回のあらすじ〓

ダークジム シャドースリー

ドルピック島上空では闇道場【影三】によるハイジャックが発生し、ビアンコヒルズでは殺戮犯とマレ蔵の戦闘。
ドルピック島は今、壊滅の危機に瀕している……

この事件の犯人は、マレ蔵なのか……

マレ蔵「なんだ、よく分かってるじゃないか。

君の首には賞金がかかっていてね……

バツガルフ総帥の奴に差し出せば一億コインが出るんでね。
」

マリオ「お前もメガバッテンか……」

マレ蔵「さあどうかな。」

さて、おしゃべりはこれぐらいにして、さあ、君の首を頂戴するよ??

うしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃしゃ……」

シュバツ……

マレ蔵はいきなり近所のおじさんの形見のナイフでマリオに切りかかってきた!

間一髪交わしたものの、マリオはそのスピードに驚いていた。

マリオ「ちっ、すばしっこいな……」

マレ蔵「…… フフフフフ、やっぱかわされちゃったか。

でも、次は外さないよ??

『マーレスタップ』!!」

マレ蔵はマリオを一刺し使用と次々と強烈な一撃を繰り返す。

マリオ「ヤロオ……」

マレ蔵「……………フフフフフフ、どうちたの？マリオちゃん。
それでも元殺戮犯？？」

マリオ「素性もバレバレってことか。

だが、それが俺を殺せる理由には……

カキンッ！！

マレ蔵「なっ……………」

マリオ「ならねえな。」

マリオはマレ蔵のナイフの動きを見切り、ナイフを叩き落とした。
マリオは、マレ蔵の一瞬の隙を見逃すはずはなかった。

ドカツ……………」

マレ蔵「ガハッ！！」

マレ蔵は大きく打つ飛ばされ、血塗られた壁に激突した。

マリオ「マレ蔵、お前の攻撃が俺に当たらないのは何故だと思う？」

マレ蔵「なっ……………」

マリオ「お前がマレ蔵じゃないからだ！！」

…………… 続

第十三話「さつさと正体を現せ!!」

マレ蔵「なななな、何言ってるのかな?？」

僕は僕だよ??

僕は僕以外何者でもなくそれ以上でもそれ以下でもないんだから♪♪」

マリオ「オドロン寺院の勇者の悲劇……【ブタのためにカネはなる事件】」。

村人が次々と豚に変わる現象を調べに来た伝説の赤の勇者が、オドロン寺院で仲間裏切られて殺された事件だ。

まあ、裏で支配していた組織の裏切り者が解決、勇者も生き返ったんだけどな。

そのオドロン寺院が老朽化でぶっ壊れてな。その瓦礫の山から、とんでもない物を見つけたんだ。」

↓数時間前・宿↓

とある男《マリオ、オドロン寺院崩壊のニュースでとんでもない物を見つけたぞ!!》

マリオ「何だよ、メガバツテンや殺戮事件の犯人の朗報じゃねえのかよ。」

とある男《その事件に関する情報だ。

ニュースで流れた映像にあった瓦礫の山の中に、【ン】の字があつたんだ。》

マリオ「【ン】の字?!」

とある男《実は伝説の赤い勇者はオドロン寺院に住み着いていた魔物に名前と体を奪われたらしいんだ。》

マリオ「名前と体……何かあげつないなあ。」

とある男《だが、その事件を裏で糸を引いていた組織の中に裏切り者が出た。

そいつが魔物の弱点である“本当の名前”を使って魔物を弱体化させて退治したというのがある学者が唱えた一説だ。》

マリオ「その説と【ン】の字が何の関係があるんだ。」

とある男《そのオドロン寺院の魔物というのが、ラ。ペル。

僕は、そいつが今回の殺戮事件の犯人だと思う。》

マリオ「そうか……ん?まさか!!」

とある男《ああ、そのとおりだ。》

く再び、血の海ビアンコヒルズく

マリオ(あいつの言った事が本当のことだとすると、これで奴を弱体化できる筈だ。

腹をくくれ、死と恥のどちらかを選ぶなら、迷わず恥をとるんだ!!

行くぞ!!男マリオ、一世一代の大勝負!!)

次回、【ランペル】がその正体を現す!!

……続

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2996j/>

Red tornado痛 ～マリオ・世界に行く～

2011年7月4日23時55分発行